

## 改革推進会議「施策点検部会」について

### 1 目的

県の施策をより効果的で望ましいものにするため、改革推進会議に4つの部会を設置し、県内各層から幅広い意見・提言を伺うことで、施策の点検を行い、来年度以降の予算編成及び施策展開の参考とする。

### 2 開催実績

部会名	部局名	第1回	第2回
産業振興	商工労働部、農林水産部	8 / 3	8 / 26
生活・社会基盤	地域振興部、土木部	8 / 4	8 / 25
教育・環境	教育庁、環境生活部	8 / 5	8 / 24
医療・福祉	健康福祉部	8 / 6	8 / 23

### 3 主な意見の例（詳細は別紙）

#### 〈産業振興部会〉

- 神話等の歴史・文化をテーマとした観光誘客の展開  
→神話・歴史をやわらかく取り上げることが大切。雑誌も女性や若者向けがよいのではないか。

#### 〈生活・社会基盤部会〉

- 地域コミュニティの維持・再生  
→地域マネージャー、集落支援員、社会教育主事が横に手を結び、動く仕組みを作ることが重要。

#### 〈教育・環境部会〉

- 子ども読書活動の推進  
→子どもの親の世代に本を読ませることが大事。県民あがての活動が必要。

#### 〈医療・福祉部会〉

- 医師・看護師等確保対策  
→呼ぶ、育てる、助けるに加えて「長くいてもらう」施策も必要。

### 4 意見・提言への対応と今後の予定

- ・意見・提言内容は、各部が予算事業を組み立てる上での参考材料とする
- ・施策効果が認められ、直ちに対応が可能なものは、予算編成の中で積極的に検討
- ・施策効果が認められるが、直ちに対応ができないものは中長期的に検討

2 / 中旬 H23当初予算案にあわせ、意見の反映状況を公表

## 産業振興部会の主な発言要旨

テーマ名	主な意見
<p>神話等の歴史・文化をテーマとした観光誘客の展開</p>	<p>○県民理解、誇りを持てる郷土づくりが大切。小・中学校の連携や出雲と石見の連携を絡めながら県民理解の醸成を図るべきではないか。</p> <p>○誘客には、また来たいと思われることが必要。そのためには、アクセスが大切で、乗り心地が悪く疲れる伯備線はカーブなどの改善を行い、ゆったりとした気持ちで来れるようにしてほしい。</p> <p style="padding-left: 2em;">観光地間の交通の便が悪いため、タクシーが不可欠でお金がかかる。観光地間の交通網をもう少し考えてほしい。</p> <p>○県民がしまねの歴史・文化を説明できるガイドブックの配布を検討してはどうか。</p> <p style="padding-left: 2em;">待ち時間解消のため、飛行機とJRの接続時間を合わせてほしい。</p> <p>○神話・歴史をやわらかく取り上げることが大切。雑誌も女性や若者向けがよいのではないか。</p> <p style="padding-left: 2em;">県民がしまねを知るための教育をしっかりと行ってほしい。</p> <p>○島根は知名度が低いため、今回のテーマで新たに誘客することはハードルが高い。効果的な誘客を行うためにはリピーターをターゲットに行うのがよいのではないか。</p> <p style="padding-left: 2em;">ワーキング会議には、第一線で観光客に接する者を参加させるべき。</p> <p>○神話・歴史・文化では集客は難しい。神楽や自然は好評。</p> <p style="padding-left: 2em;">九州のように、島根も中国や韓国から誘客を行ってはどうか。</p> <p>○今の時代にあった宣伝方法を考えてほしい。</p> <p style="padding-left: 2em;">行政や観光協会が地域の詳細を把握してほしい。</p> <p style="padding-left: 2em;">高速道路がつながっても、おもてなしができなければ、素通りされる懸念を感じる。</p> <p>○大型クルーズ船は、大人数の富裕層の誘客が見込める魅力がある。</p> <p style="padding-left: 2em;">マスコットなどPRが地味。神社を回るスタンプラリーをやってはどうか。</p>

<p>県内企業と高等教育機関との産学官連携</p>	<p>○LEDや太陽電池などの研究開発はすばらしく、産技センターの研究員の増員や営業力を持つスタッフ、コーディネーターを確保してはどうか。</p> <p>○マッチングを望むかどうかは経営者の意欲次第。 コーディネーターは山陰に限らず世界動向にも精通している人材の確保が大切。</p> <p>○必要な情報は企業自身が収集すべきだが、より踏み込んだ情報は、精通したコーディネーターの活用が有効。</p> <p>○マッチングの苦勞を耳にする。コーディネーター増員による体制づくりが必要。 大学などの研究成果の周知には、手に取り・見てもらうための分かりやすい工夫が大切。</p> <p>○島根県として目指す方向（テーマ：自然環境、農林業など）を決めるべき。</p> <p>○温泉は予防医学的に有効であり、数値的な立証をすることで、観光や産業など、いろんな分野に可能性が広がる。</p> <p>○優秀な学生が卒業すると県外へ出て行く。県内の中小企業への運営資金を支援し、県内に技術者を残す取組をしてはどうか。</p>
<p>高等技術校等における産業人材育成のあり方</p>	<p>○島根は、交通が不便で距離が長いため、進学は県外に出るのに等しい。身近な地域で育てられる環境が必要。</p> <p>○企業経営者の話では、中途半端な人材よりは、知識の無い者の方が良いとのこと。雇用主の声を聞き、徹底した教育が求められる。</p> <p>○学科の変更・考察（観光ガイド課など）や、高齢者も学べる年齢制限の見直しがあつてよいのではないか。</p>

<p>農業の担い手育成・確保</p>	<p>○国や県は莫大な予算を投じ、どこまでやるのという印象。他産業ではあり得ないことで、事業として成立つことは農業者自身の問題。</p> <p>集落営農は儲かる仕組みを作ることが必要で、事業として成立するのか、きちんと考えておくべき。</p> <p>○若者に職業として選択してもらうためには、所得など魅力ある産業であることが必要。</p> <p>○支援や助成制度の周知徹底をすべき。</p> <p>○地域貢献型集落営農育成・確保は最重要施策の一つで、全国的な普及も期待。U I ターン希望者に対し、農地や住宅など、集落ぐるみでのサポート体制が大切。</p> <p>○農業での自立は難しく、定着するまでのやり方（農業+α）を考えるべき。就農にはいろいろな壁があるため、ワンストップの相談機関が必要。</p> <p>○定着には、地域によってはインターネットや携帯電話など、生活面でのインフラ整備の支援が必要。</p> <p>○雇用の場にもなっている市町村農業公社への支援を検討してほしい。</p>
<p>有機農業の振興による島根農業の活性化</p>	<p>○農業者が経営者として考えるべきこと。</p> <p>○手間がかかるため、見合う収入が必要。しっかりPRもすべき。</p> <p>○有機農業は、安全な食の提供と同時に、自然環境保全など多面的な効果があるので国を挙げて支援していかないといけない。</p> <p>○いずれ有機農業の時代が来る。今のうちに、島根にしっかりとした基盤整備と人材の育成が大切。</p> <p>有機農業が何かということの消費者の理解を進める仕組みづくりが必要。</p> <p>○有機JAS法に基づく有機農業を広めてほしい。海外への輸出にも繋がる。農業大学校に有機ハウス建設を検討してはどうか。</p>

農林水産物の販路拡大	<ul style="list-style-type: none"><li>○顔の見えるポップなど、食品の宣伝の工夫が大事。</li> <li>○まずは、島根県内でのPRを行うべき。 「島根に行くと、これがある」と言える製品を作り出す必要。</li> <li>○大消費地に向けた取組と同時に、産直市での地産地消の振興が大切。 価格設定交渉には、流通の専門家の知恵を借りてはどうか。</li> <li>○作るより、売ることは難しい。市場流通（競り）と市場外流通（交渉）をうまく使い分けるために、流通業者の知恵を借りてはどうか。 島根の農業を支えている産直市を大切にすべき。</li> <li>○山口県は、ローソンとの名産品の販売契約をしている。</li> <li>○シャインマスカットのみではなく、他県に先駆け取り組んできたデラウェアも引き続き取り組むべき。</li></ul>
------------	--

## 生活・社会基盤部会の主な発言要旨

テーマ名	主な意見
U・Iターンの促進	<p>○定住支援員配置はいいことだが、U I ターンだけなのか。大学生、高校生の就職支援や独身者の結婚支援など幅広い定住策もある。定住支援員の仕事マニュアルを作るべき</p> <p>○U I ターンの施策全体は整っているが、若年者教育など入り口ベースを強化すべき。また産学連携も必要</p> <p>○U I ターンの総合サイト開設はよいが、ユーザーに対して正確な情報提供を行うべき</p> <p>○交流人口を増やすことが必要で、農機具等の遊休施設を活用し、若者だけでなく定年後の人のU I ターンも進めるべき</p> <p>○一定の技能を持っている人、起業を目指す人には優遇措置も</p> <p>○地元に着のある若者多いが、最大のネックは雇用先がないこと</p> <p>○都会の高齢者に老後は島根に定住してもらうことも進めたら</p> <p>○島大に県外出身者が3千人おり、島根に着がある者も多いが、雇用の場がない。また、30歳まで島根に住んでもらうなど、I ターン者の循環も必要</p> <p>○学生などは定住支援について知らないことが多いので、インターネットなど取りにいかないといけない情報ではなく、情報発信の充実を</p>
地域コミュニティの維持・再生	<p>○県や市町村の行政指導で集落・自治会の合併や再編を進めるべき</p> <p>○空き家を活用したグリーンツーリズム、農家体験民宿などを自治会、公民館がまとめ役となって実施したらいいのではないか</p> <p>○地域に住んでいる者が将来のことを考え、「おんぶに抱っこ」から立ち上がって「自立する住民」になっていくべきではないか</p> <p>○ある過疎地域内の全ての農地を外部の農業法人等へ売却、貸出しするシステムを検討できないか</p> <p>○地域の特性を活かした「目標」を作って地域活性化に取り組む必要あり</p>

<p>地域コミュニティの維持・再生</p>	<p>○地域マネージャー、集落支援員、社会教育主事が横に手を結び、動く仕組みを作ることが重要</p> <p>○地域コミュニティは基本的に市町村がやるべきこと。新たな地縁血縁関係を作って様々な活動に結びつけていくことも必要</p>
<p>バス路線の運航維持</p>	<p>○セダン車など小型車、軽車輛を使つての輸送サービスを工夫してはどうか。バスにこだわる必要はなく、地域で輸送サービスを行っている団体や住民組織なども視野に入れ交通体系を組み立てることが大切。そして意欲を持って活動する団体に少額でいいからきめ細かな支援をすべき</p> <p>○この問題は最終的には市町村の役割だが、県の調整能力が必要</p> <p>○空で走っているバスも多くあり、利用者の視点で考える必要あり</p> <p>○道路行政があつても交通行政なし。市町村で交通政策を担当している部署は少ない。住民にとって本当に必要な施策を考えるべき</p> <p>○公共交通を地域で維持する意識が必要。住民が、そうした意識を持てるような様々な活動への支援が必要</p>
<p>道路網の整備と維持管理</p>	<p>○中山間地域に3メートルもの幅員の歩道が必要か疑問。人口密度などによって幅員を考えるべき。</p> <p>○県として独自性と具体化を考えて、少ない金額を有効に投資すべき。整備水準で全国に追いつくことも必要かもしれないが、代替道路がないような箇所では、セーフティネットを考えた整備も必要。</p> <p>○これからは、選択と効用化が大切。県と市町村との意思疎通が図られ、だれもが共通の意見を持ち効率よく運用することが大事。</p> <p>○道路の維持管理について、家の前などの地域住民の生活範囲は、住民自らが草刈りを行うことを提案する。地域住民の「共益道路」として呼びかける。</p> <p>○高速道路の整備は必要であり、国へのねばり強い働きかけが必要。一方で（高速道路以外の道路は）選択と集中を行い、効率性やコスト・ベネフィットを図るべき。</p> <p>○高速道路の浜田～米子間は、道路網の背骨にあたるが、未整備区間がある。行政は、いつまでに整備するという期限を切つて取り組んで欲しい。その期限に向</p>

<p>道路網の整備と維持管理</p>	<p>け、県民を含めて一丸となった働きかけを国に行うべき。</p> <p>○動脈としての道路整備は大事。しかし、立派な道路に並行する中途半端な長さの道路など、中には無駄と思うものもある。動脈へ投資を注ぐためには、そのような道路の計画を見直すことも必要ではないか。</p> <p>○限られた財源の中では、何をきちんと保障していくのか、これだけは守っていくという例えば医療や防災など方向性を持つ必要がある。また、もう少し住民参加を考えるべき、道路の改築は無理でも修繕などは工夫の仕方があり、経費削減に繋がる。</p> <p>○これからは、守るべき範囲のコンパクト化を考えていくべき、道路のリダンダンシーの確保は重要だが、それもコンパクト化を邪魔するやり方は避け、50年、100年後の姿を考えながら整備すべき。そのためには、都市計画など横の連携をしっかりとっていただきたい。</p>
<p>居住環境づくり</p>	<p>○西部、中山間は普及が遅れている。交付金を継続すべき。</p> <p>○市町村等の枠を超えた連携を考慮した整備が必要。</p> <p>○人口密度の低い地域をどう考えるのかコスト意識も必要。まちづくりと密接に考える必要。本県では、汚泥が産廃の2割を占めるため、活用も含めて検討すべき。</p>
<p>公共施設の長寿命化対策</p>	<p>○長寿命化の見極めには、切り捨てていく部分も出るはず。バラバラではなく、まちづくりと連動して実施するべきで、県の独自性が出ないと住民は納得しない。</p> <p>○持論として、公的施設はある程度は有料化すべき。それにより、ものを大事にする心も育まれる。</p> <p>○長寿命化はコスト削減やエコに繋がる。実施の見極めに際しては、住民との話し合いも行い、施設のスクラップも行うべき。</p> <p>○防災上の重要なものは、ライフサイクルコストに拘わらず実施すべき。</p>

## 教育・環境部会の主な発言要旨

テーマ名	主な意見
<p>実証！「地域力」醸成プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公民館活動の中で、体験活動を取り入れ子どもを地域で育てていくことが大事。体験、交流活動の中で、ふるさとの良さを知り、ふるさとを愛する心をもつことが、県外に出てもまた帰ってくることにつながる。</li> <li>○モデル公民館の活動が支援終了後も根付いていなければダメ。それには自分で資金調達しつつ、自立してやっていけるような支援、フォローが必要</li> <li>○小さなコミュニティ、地域独自の文化を大切にするというのが、これから大事になってくる。公民館活動は、資金面で行政を頼らず、「自腹」で自らリスクを負いながら地域の人が支えていくという精神が必要</li> <li>○公民館は大事だが、子育てについては児童館などもっと幅を広げて考えるべきでは。</li> <li>○イベントをやるのが地域力の醸成なのか。イベント重視は疑問。プレゼンも無駄では。公民館職員の負担は大。</li> <li>○公民館活動にもっと現役世代に足を運ばせる、巻き込むことを考えるべき。世代間交流も重要。いい事業なので対象を増やしたらどうか。</li> <li>○それぞれの館によって、事情や課題が違うが、いちばん必要なことをそれぞれ取り上げてやっていくのがこの事業。続けてほしい。 イベントが多いことについて。公民館の力も千差万別。イベントをやることによって、地域の人をつなぐことができ、職員の力量アップにつながっている。プレゼン大会も有意義なもの。</li> </ul>
<p>子ども読書活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○親の姿勢が子どもに与える影響は大。親への情報提供ができないか？</li> <li>○まず大人が読書を楽しみ、子へ伝えることが必要</li> <li>○読書の習慣化は大切だが、これは司書がいないと難しい。</li> <li>○司書だけでなく地域のボランティアを学校に引き寄せること</li> </ul>

<p>子ども読書活動の推進</p>	<p>○保護者への啓発を。学校図書館を地域に開放し、身近に使えたらいい。質の高い司書の配置を。</p> <p>○図書室に人がいると子供もやってくる。全学校に司書を配置すべき。ボランティアでもいい。</p> <p>○子供の親の世代に本を読ませることが大事。県民あがての活動が必要。公民館活動なども同様だが、みんなが参加して取り組まないと成果はでない！本を増やしたり、司書を配置するだけではダメ。</p> <p>○小さいときからの習慣づけが必要。これから親になる世代への習慣づけが必要</p>
<p>美術館を核とした文化振興</p>	<p>○2つの美術館がそれぞれの施設の個性をより明確にして機能を最大限に果たすことが重要である。特にその中心的役割を果たす展覧会についてはこれまでと同様に本物にこだわって質を落とさないよう頑張ってもらいたい。</p> <p>日本とアジアとの交流で大切な地である島根に、日本文化の形成をアジア史的観点からとらえる歴史系博物館があるとよいと思う。</p> <p>○いい企画だとたくさんの観客動員が見込めることから、観客動員が見込める企画をぜひしてほしい。</p> <p>美術館の雰囲気を活かした結婚式など、更に発展した企画をしてもらいたい。</p> <p>パスポート会員が美術館のPR隊になっているので、パスポートの特典のPRと特典の拡大をしたらどうか。</p> <p>水辺に建つ美術館という特徴を活かした様々な連携企画を実施したらどうか。</p> <p>○振興のためには、県民が関わっていくことが重要。美術館にもやはり県民が行くことが基本であることから、まずは県民がどのくらい美術館に行っているのか調べたらどうか。</p> <p>来館者誘致施策と維持管理等総経費の割合に関するガイドラインをつくり来館者施策が収入に左右されにくい構造とすべき。</p> <p>メッセとか旅行会社から1年前に次回開催が島根に決まっている大会の情報をもらい県外に事前に営業するなど、誘客にあたっては、商工労働部などと連携したらどうか。</p> <p>○美術館が地域の中で文化活動の発表の場になっていることは嬉しく思う。海外の美術品が島根の美術館で見られることを期待している。</p> <p>○展覧会の企画は県直営とのことだが、指定管理を導入しているのだから、展覧会の企画も外に出した方がいいのではないかな。そうすれば、もっと他館との連携も進むと思う。</p>

<p>宍道湖・中海の水質保全と賢明な利用の推進</p>	<p>○民間レベルでの環境に関する活動に行政は引き続き関心を向けるべき。</p> <p>○松江環境市民会議のメンバーとして活動しているが、大人でさえ宍道湖に親しむ機会が減ってきており、子供たちにとっては宍道湖は見るものになっている。</p> <p>宍道湖を手軽に楽しめる場所を設けてはどうか。例えば、しじみ採取ができるとか、清掃活動も市民参加でもっと回数を増やすとか、松江温泉前の駐車場に水場を設けて水遊び後の利用に供するとか、いろいろ方法はあるのではないかな。</p> <p>○宍道湖が親しめるような水質であるなら昔のように水泳できる場所があると良い。</p> <p>森づくりの活動に企業等の参加が増えると良いし、そこで働く人が報われるような状況にならないだろうか。</p> <p>○環境に対して子供たちが関心を持てるような活動が大切で、地道な啓発活動を続けていくことで、当たり前のこと、として環境活動に接することができるようになるとう良い。</p>
<p>地球温暖化対策</p>	<p>○CO2削減の話が多く、吸収についての話があまりないので、吸収についても同時にいただけると良いと思う。吸収についての努力をしていることを示しながら削減努力も促していただきたい。</p> <p>○島根県でCO2排出量が多い車について県民へのエコドライブを促進すべき。もちろん、地元ニーズに応じた公共交通網の見直しも必要で、無駄な迂回、中継を省いて、多くの人々が目的地とする場所へできるだけ早く到達できるような交通網にならないだろうか。</p> <p>○このテーマは行政が大上段から取り組むよりは、企業や個人の取組みを積み上げることが大事。キーワードは参加型社会の形成。みんなを巻き込んだ取組みを如何に構築するかにもっと知恵を出すべき。</p> <p>エコな形を企業、家庭、公民館、学校教育などに落とし込んでいく活動は地味だけど島根らしい活動になる。</p> <p>また、皆さんの取組みのおかげでこうなりました、という簡単な形で成果を示すことが最も重要。</p> <p>○わかりやすい、実践できる行動を示すことが必要。各人の努力が成果イメージにつながりやすくしてあげることが大事。</p> <p>○農業と環境が連携してPRすることはできないだろうか。山や田や畑を守ることが環境を守ることにつながるようなPRを工夫して欲しい。</p>

## 医療・福祉部会の主な発言要旨

テーマ名	主な意見
<p>医師・看護師等確保対策</p>	<p>○奨学金制度は実施から間もなく、成果の検証ができていないと見込まれるので、幾ら支出したか、ではなく、何人確保できたか、という資料にしてはどうか。</p> <p>また、若い医師の意向を十分踏まえた制度を打たなければ効果的な施策とはならないと思う。</p> <p>○「呼ぶ」「育てる」「助ける」に加えて「長くいてもらう」施策も必要。</p> <p>勤務医部会アンケートでの若い医師の不満として、当直明けの連続勤務や長時間勤務の処遇の低さを指摘する一方で、勤務自体には大半がほぼ満足又は不満だが我慢していると回答している。</p> <p>長時間勤務の要因は患者数や書類作成が多いこと、自分の勉強、患者や家族への説明などをあげており、これらへの支援が有効では。研修病院の選択には先輩の話や同僚の意見が影響しているようだ。</p> <p>○人口 10 万人あたりの医師数は多くても県東部への偏在が顕著で、西部は明らかに医師不足。医療の集約はかえって地域医療の崩壊を招くし、若者の地域への定着をも阻害する。</p> <p>45 年前は島大医学部から派遣を受けていたが、島大医学部ができてからの方が状況が悪くなってきていると思う。学生に郷土医療に対する使命感をいかに持たせるかを考えることが必要。</p> <p>若い研修医に島根県に残らない理由を聞くと「先端医療等の魅力がない」と言う。例えば国立がんセンターを益田に誘致し、魅力ある病院になれば医師も集まる。</p> <p>地域においても、コンビニ受診の抑制など病院勤務医の勤務環境を進めることが大事。また、女性医師への配慮が必要。</p> <p>○中山間地域、離島などでは病院に通うためのコミュニティバス等への支援が欠かせない。</p> <p>○病院勤務の看護師に加えて在宅看護に携わる看護師の実態も踏まえた施策を講じて欲しい。また、在宅看護に携わる看護師のスキルアップのための研修などにも支援して欲しい。</p> <p>○専門医の確保のほか、つなげる役割の医師不足が深刻。介護施設等からは精神科医の増員が望まれている。</p> <p>医療の進歩により高度な技能を有した看護師が必要になってきており、短期で医師が入れ替わるような病院では看護師の向上心に応えられない。</p>

<p>医師・看護師等確保対策</p>	<p>○奨学金を貸しているからといって医師が増えるとは思って欲しくない。若い医師は結局、自分の勉強のできる所へ行く。島大医学部の学生が地域活動を行うような場合に県や市町村が予算補助してはどうか。</p> <p>○病院の地域を巻き込んだ経営努力が大事。地域住民とのコミュニケーションが希薄な病院は結局、人を惹きつけることはできない。</p> <p>○児童・青年期の精神科専門医師が不足している。山陰地区では、仮に少年事件が発生しても児童の精神鑑定ができる医師がいなくても聞いている。</p> <p>○女性医師が子育てしながら働ける魅力ある職場環境づくりが重要。</p>
<p>がん対策</p>	<p>○検診受診率が向上する取組みが重要。</p> <p>○提示された施策一覧は重篤な患者対応が多く、だから専門医が必要、というような構成になっていると思うが、患者を支える家族の宿泊施設とか遠隔地からの通院助成なども必要ではないか。</p> <p>○予防、医療水準向上、患者支援が施策の三本柱であるが、がんは早期発見、早期診断、早期治療につきる。がん拠点病院との連携を上手くとれば県内で治療が完結できると思う。早期発見は検診受診率の低さとも関連するが、もっと楽ながん検診はないものだろうか。検診が苦痛であることが低受診率の要因であるように感じる。</p> <p>また、禁煙対策や肝臓がんを予防する対策も必要。</p> <p>緩和医療はがん末期からではなく、がんと診断されたときから始まることをもっと啓発するべき。県医師会でも医師に対する研修を行っている。</p> <p>○益田に国立のがんセンターを誘致して最先端の医療、研究が可能な環境をつくって欲しい。</p> <p>○がん患者支援の充実、特に支援団体の育成支援が必要。</p> <p>○がんサロンなど患者が中心となるような取組みを更に進めて欲しい。</p> <p>がんコーディネーターの活動範囲が生活全般に及ぶよう、地域にもコーディネーターを配置して欲しい。</p> <p>○浜田医療センターの PET-CT 整備には市社協への香典返しなどからの寄附金を充てたと聞いているが、設備の充実にも増して、良い医師との出会いが寿命をまっとうするには重要。機器でがんは発見したが治療できないとか、手術はしたが術後は異動で看れないというのは地元で根ざしていかない。</p>

<p>がん対策</p>	<p>がん治療は高額な負担となることも多く、資金力が生死を分けるようなことがないよう公費助成などが検討できないか。</p> <p>ターミナルケアができる施設があると良い。(また認知症を伴う場合の心のケアができる施設も同様。)</p> <p>○浜田には PET-CT はあるが、実際の手術は広島や県東部へ行っている。地域でがん治療が完結できるような医療体制を整備して欲しい。</p> <p>早期発見の方がかかるお金が少なくて、助かる人も多いなら検診料助成を検討してはどうか。</p>
<p>認知症における医療と介護の連携</p>	<p>○認知症の方の見守りにあたり、「個人情報保護法」が壁となり、深い関わりを持つことが困難になっており、周辺や地域等の人も困っている。</p> <p>○かかりつけ医にアンケートを実施し、その役割と推進を阻害する要因を明らかにし、かかりつけ医からの提案を施策検討してはどうか。</p> <p>○「認知症よりもがんになる方がまし」、と言う声を聞くことがある。自分が自分らしくなくなるからだとされる。専門医と開業医の連携をはじめとし、認知症を理解した人が、コーディネーターとして配置されること、また、県民啓発として、子どもの頃からの人権のケアについての啓発をすすめてほしい。</p> <p>○認知症の人が、付き添いがなくても利用できる病院や施設にして欲しい。</p> <p>○介護と医療の連携のために、介護と医療が同一敷地内にあるような施設整備をお願いしたい。</p> <p>○いっしょに住んでいる家族が安心できるような、家族支援をお願いしたい。</p> <p>○認知症サポーターやキャラバンメイトが、地域で機能できるような体制でなければならない。</p> <p>○ケアマネジャーが専門医と連携を図り、最後までケアに関わることが大事である。</p> <p>地域包括支援センターには、家族の支援や地域の情報収集、関係者の連携のためのキーマンになってほしいと思う。認知症の方が、いつでも利用できる入所施設があれば、家族の負担も軽減できると思う。</p>

<p>子育て支援</p>	<p>○結婚するときに県や市町村が多少でもお金を出さないと結婚問題は解決しない。</p> <p>○未婚社会が到来し、晩婚化、晩産化が進んでいることに対策が必要。</p> <p>○安心こども基金にしても 8,000 万程度しかなく、十分な施策ができる規模とは思えない。今回は「施策点検部会」という名称だったので、県全体の予算から無駄を炙り出すようなイメージでいたが、今回提案された健康福祉部の課題はいずれも必要なもので削りようがない。</p> <p>ひきこもり対策の対象となる県民は全国の割合から推計すると 1 万人程度存在すると試算しているが、具体的な施策が何も提示されていない。雇用につながるような対策あるいは給付付きの対策を講じるべき。</p> <p>○高齢者のデイサービスに学童保育を組み合わせるなどの工夫や、啓発方法の工夫も必要。</p> <p>警察の委託事業である子ども支援センター事業は地域でも好評価だが、一般へのアピールがあまりされていないため、存在を知られていない。工夫が必要。</p> <p>○民間の活動との連携をはかるとともに、民間活動が継続できるように支援方策を検討してはどうか。</p>
<p>障がい者の就労支援</p>	<p>○モデル事業をたくさん作って良い結果がでた事業を広げることが難しいなら、重点事業者をつくって成果が出るまで支援してみてもどうか。</p> <p>○障がい者の就労支援策と障がい者手当の性格（生活扶助）を混同することなく支援を継続して欲しい。</p> <p>○障がい者の賃金を端的にもっと高くすることはできないのか。</p> <p>○発達障がいや人格障がいの人への対応ができていない。コミュニケーションが下手な人に適した就労形態を支援して欲しい。</p> <p>まずは、居場所があって、安定した就労が実現できるのではないか。委託費や補助金は毎年度の予算に左右されて現場としては歳入のあてにならないので、県として安定した資金支援をして欲しい。</p> <p>○不況になると仕事を探すのも大変。見込んでいた寄附がなくなることも珍しくなく、安定して仕事を確保するのは非常に大変なこと。</p>

○工賃倍増、環境向上については非常に感謝している。ただ、西部の企業の現状としては訓練はできるが雇用は難しいし、せっかく就職しても途中で辞める人が多い。就業・生活支援センターにジョブコーチを配置すればもっと職場に定着する。

また、発達障がいのある就労は短期間では難しいので小さいうちから対応が必要。

若者の居場所づくりについては、西部では対応が遅れている（無い）。就労支援継続A型、B型では対応できない人が働ける施設が要る。島根ブランド構築事業などとも連携して、このようなステップを確保してはどうか。対象となる人は精神福祉手帳が必要だと分かっているが、いざ手続きの段になると申請を尻込みするところがあるので、スムーズな手続きについても支援が欲しい。